

経営比較分析表（平成29年度決算）

山形県 上山市

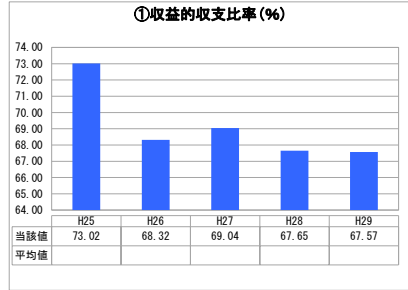
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	10.03	100.00	2,520

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
30,889	240.93	128.21
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,082	2.36	1,305.93

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



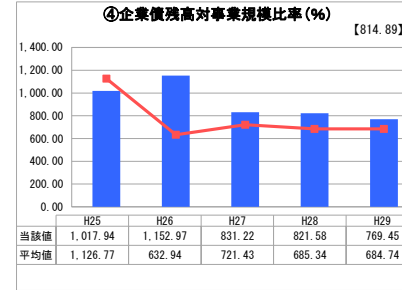
「単年度の収支」



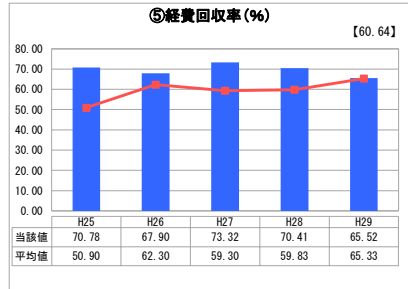
「累積欠損」



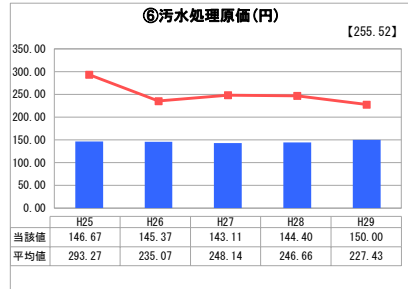
「支払能力」



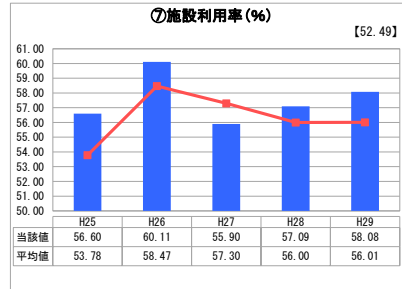
「債務残高」



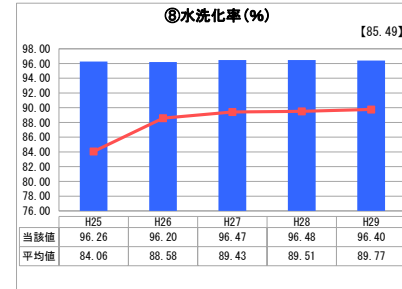
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

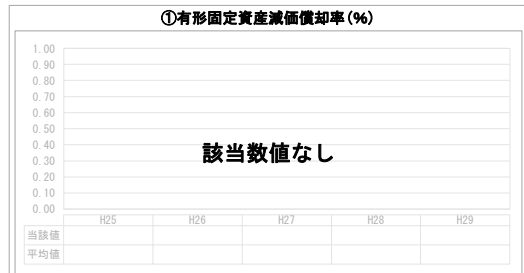


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

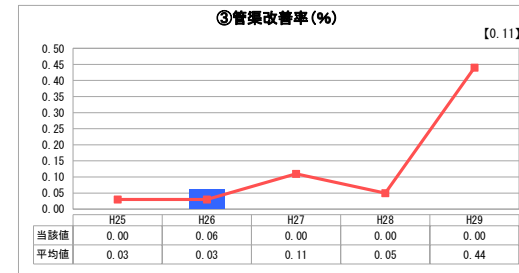
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

当市の農業集落排水処理施設の維持管理費については概ね使用料で賄われているが、起債の元利償還金については一般会計からの繰入金に依存している。そのため、平均よりは上であるものの、⑤経費回収率及び①収支比率は100%を下回っている。また、施設の建設事業は完了しているものの、据置期間が終了し今後更に返済が開始されていくので、元利償還金の返済額は増えていく。なお、接続率は比較的良好のため、⑥汚水処理原価及び⑧水洗化率は平均より良い数値となっている。ただし、供用地区も例外なく少子高齢化が進んでおり、今後も使用者数の減により、収入の減少に歯止めがかからない状況である。

2. 老朽化の状況について

当市の農業集落排水処理施設は、供用開始から10～34年経過しており、耐用年数を経過した機器類や経年劣化が心配される中継ポンプ・管渠があり、年々修繕費が増加している。管渠についてはH26に高速道路工事に伴う一部補強工事を行ったものの、それ以外現時点までに更新は実施されていない。またその他として、宮川2処理区におけるマンホール監視システムを電波法上、H34までにアナログからデジタルへ更新する事及び停電時における非常用エンジンポンプ等の設置の必要性なども懸念されている。

全体総括

上記分析に基づく今後の改善に向けた取組
 【料金水準の適正化】
 使用者数の減による収入減が今後進むことから、動向を注視していく必要がある。
 【施設の長寿命化】
 機能維持を目的とした機能診断結果に基づく最適整備構想の策定（H30）に取り組む事により計画的な対応を検討し、安定的な維持管理体制の確立を目指す。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。